

「あきらめ、を排し

白紙徹回へ向け前進せよ！

一 理学生大会・スト続行を決定／＼

本館封鎖を断固として死守し、要求貫徹の日まで斗い抜かんとしている全ての学友諸君!! 本館封鎖以来一週間を経た現在、我々文・斗争委は、現在の斗争局面と今后の斗いの方向性、展望を全学友に提起し、再度戦列を強化せんことを訴えたい。

へ切り崩し第劫を強化しつつ、夏休み「自然消滅」を待つ大学当局へ

大学当局は、我々のE館・本館封鎖をその全学的波及という強固な斗いによって、その内部に一定の動搖を見せつづも、そのたてなおしを行ふと同時に、当面静観しつつ、4年生の就私事務・奖学金・アルバイトなどを通じて我々の斗いの切り崩し活動を強め、学生間の分岐を助長させ、夏休みという時期を利用して、学生の斗いの「自然消滅」を待つているのだ。その意図は、理・農のスト解除や文の孤立化、4年生の切り崩し・斗争全体の消滅と崩壊であり、安易な株効導入を、自らの調査ヒ計上の野望のため、おさえているのだ。だが逆に、移転強行のため、國大校最右派たる狂人三輪が、その任期切れを目前に、最後の置土産として暴力的弾圧を加えてくることも充分予想されるし、絶えざる警戒心を払いつつ、警備体制と斗争体制の強化をはからねばならない。警備体制と斗争体制の強化をはからねばならない。

へ理12日までスト続行／＼10日全学集会で更に戦列の強化を／＼

このような大学当局の動向とともに、昨日行なわれた農学生大会では、残念ながらスト解除とはなったものの、理学部では12日までのスト続行が決定したこととはつまりと確認しなければならない。文斗争委の次の任務は何か？それは、理の抗議ストを要求貫徹ストへと負的に転化させ、筑波そのものへの対決へと向かわせることがある。そのための保証として文・斗争委は、10日に全学生生総決起集会を開き、本館封鎖を結集点に長期ストで要求貫徹まで起し、本館封鎖を結集点に長期ストで要求貫徹まで先進的学友諸君!! 理学部のストライキ斗争を主体的保証として斗う全ての学生を結集した全学斗争委員会を早急に確立しなければならない。農学部の

に担っている全ての学友諸君!! 執行部の無指揮性を突き破らんとしている教育学部の学友諸君!! 10日の全学集会に斗う意志をもって總結集しようではないか!! 文の斗う全ての学友諸君!! 責任をもつて、全学の先頭に立とうではないか!!

へ10日全学集会に結集し、文スト斗争の更なる強化を／＼

現在、文の斗いは、弛緩した状態を示している。それは、どうしたら勝てるのかしにに対する一定の疑惑と大学当局との緊張関係の喪失、登校する学友の減少、大学側の高圧的态度と切り崩しなどに規定されでいる。このような状況に対して文・斗争委は明確に次のように答える。『自然消滅』か『斗争体制の維持』かが我々に向われているのであり、本館封鎖死守・長期スト体制確立が勝利の鍵であり、唯一の展望なのだ。強固な三輪体制を打破してゆく道は、我々の全力を結集した斗いの維持・強化以外はないのだ。この点について甘い幻想は許されないと同時に、我々が断固として最後まで斗うことが勝利の道であることを確信しなければならない。

へ15日新学長就任・22日概算要求締切りと全面対決せよ!! その鍵は今週の斗いだ!!

15日新学長就任に対し、我々は对学長・評議会団交を突きつけでゆかねばならない。更に22日概算要求締切りに対し、調査ヒ計上阻止を断固として斗い抜け!! その鍵は、今週の斗いにあるのだ。10日全学集会に総結集し、我々の手により大学当局との緊張関係を作り出せ!! 確かに我々は夏休みを控えて多くの困難を抱えている。だが全ての学友諸君!! 駭轡しようではないか!! 夏休みを断固返上し、22日まで斗い抜くことを。クラスの体制を再度確立し、一部の諸君の斗争解除の策動を引きとぼし、我々の斗いを繩圖に斗い抜こうではないか

10日全学集会に総結集せよ
15新学長就任 22概算要求しめきりと
全学決せよ

警備局より

教育大の全ての違反とりわけ、文員の斗争を学友に、
警備局から、若干の解決るべき問題を提示したい。

へ泊り込み体制を強化せよ
この間、斗争委員会等においても、斗争体制の工
ルミが指摘されたり。このことは警備体制に集中
的に表現されてくる。すなはち、泊り込み体制の弱
体化がますオ一にあげられる。このスト斗争を官憲
右翼、事ム賊團から防衛し、強硬なバリケードを死
守するには、最低一〇〇名の泊り込みを確保せねば
ならない。全クラスにおける一〇〇%効率を早急に確
立せよ！

ヘビケットの廃止はスト斗争勝利に不可欠だ！
学生諸君、ここで確認せねばならないことは、敵
権力が 我らの一拳手、一投足を樽に注視している
ところである。我々は一瞬たりとも気をゆるめ
てはならない。ヘビケット体制もその例外ではありえ
ない。ヘビケは、ただ身に身分證明書をしらべるだけ
の作業ではない。その時点における多くの学友との
激烈な討論がある。さらに政権力は、その全過程を
見守っているのだ。彼らは現在の状態「うまいビ
ケ」を見て、小躍りして喜びだつ。ヒシと我らの
スト斗争の「自効能率」に対してこまく監視車
及態度に出るだろう。民衆にも同じ。M1P連隊
散等曰説外であろう。こう考えるよりは結論は唯一
である。各クラスは全員出勤によつたじケットの壁
を十重にも二十重にもせねばならない。そして敵権
力のみにくいつき合せ徹底的に打ち碎くのである。
最後にスト体制において、クラスリ番号であるこ
とを強調して確認しようではないか！

(文責 H.Y.)

西洋史クラスの斗争の報告

本館封鎖に入してから一週間以上を経過し、か
なり緊張感がつづりいでいる状況がみられるだけで
あるが、再度クラスの状態を点検し、夏休みへの体
制組み、あくまで我々の要求徹底を目指して斗争一
方面を確認し、相互の情報を交換する意味で、西洋
史クラスの活動状況を報告したい。

二二では特にストの内実強化をめざして理論局を
中心に行われているシンポジウムとかみあわせる方
向で、討論資料とともに行われてゐるクラス討論の
内容について報告したい。まず我々が筑波向點にか
かわっていく前提として押さえおかねばならない
のは、自治の問題であるとの観点から、現在の大学自
治は教授層自らの理論的支柱である東大見解につり
て我々なりの批判を加える中から、西洋史見解を提

出する姿勢で、ノ・3年において数度の討議が行
われた。3年の批判の軸としては、大学の社会的
存在被拘束性と学習权、教育权が与えられており、
さらにその内容の深化が要請されている。2年は
昨年の自治の問題の到達点をふまえて、科学技術
政策等の検討へ入つてゐる。今後はクラス全体と
しての集約を行う必要がある。それなりのまと
めを行ひ、「出来たらシンボジウムへの報告を行つ
ていきたい。以上は我々の理論的強化をはかる活
動として展開されてゐるが、さらに一時崩れて
た恒常的活動を復活させるべくクラス雑誌「史友」
を舞台とした各研究会活動、来年の桐葉祭をめざ
した研究会の開始等が進められてゐる。

「夏林み」を一週間後にひかえた現在、断固斗
いぬく意志の再確認と体制づくりが必要とされて
いるが、各同クラス討論への結集が悪くなつてお
り、前述の活動を通じて内部体制を固めほおす一
方、今週に我々の力量の最大限を投入して大学側
にせまつて向く斗争を組んでいく必要があろう。
(西洋史通信員発行宣伝局特約)

筑波一席う一週間

連續自主講座に結集せよ
本日、五大学斗争交流集
会にクラスぐるみ参加しよう！

参加校

「慶應寺尾芳孝君

(学上斗争本部長・元星雲委員長)

「早大、大口昭彦君

(星学斗講長)

「横国大三戸部貴士君

(星学斗委員長)

「東洋大未定

教育大

場所..G500/

時間..三時より